令和7年度徳島市会計年度任用職員選考試験申込書

私は、試験要綱の記載内容を了承の上、徳島市会計年度任用職員の受験を申し 込みます。			試験区分				
/ - / 0							
私は、試験要綱に記載の受験資格を有しており、地方公務員法第16条各号の いずれにも該当しません。また、この申込書の記載事項は事実に相違ありません。]	事務			
V . 9 401 C E			•	3- 121			
		年 12月 2日					
ふりがな	とくしま たろう	生年月日(和暦)					
氏名	A+ A	平成 〇年	O月 O日生	写 真			
	徳島 太郎		(満 〇〇歳)	4.5cm×3.5cm			
	(7770-0000)		4. 50 11 / 5. 50 11				
現住所	(1770-000)	※過去3か月以内					
场任 別	徳島市幸町2丁目5番地	に撮影したもの					
電話番号	(携帯090—××××—×××) (自宅088—×××—×××)						
メール	裏面に氏名記載						
アドレス	jinji@city-tokushima.i-tokushima.						
学歴 (専門学校等を含め、最終の学歴とその前のものを記入してください)							
	在学期間	学校名(学	部•学科名)	修学区分			
最終 (現在)	平成〇〇 年 〇月 ~平成〇〇 年 〇月	〇〇大学××学部〇	○学科	卒業			
その前	平成〇〇 年 〇月 ~平成〇〇 年 〇月	××高校普通科		卒業			
職歴:最近のものから記入してください (学校卒業から現在まですべて記入すること)。							

職歴:最近のものから記入してください(学校卒業から現在まですべて記入すること)。 記入にあたっては、記入例を参考にしてください。								
在職期間(和暦で記入)			勤矜	先		仕事内容	職員区分 (正規・臨時の別等)	
令和 〇年	O月~	(Ŧ	見在)	徳島市〇〇部〇	O課		〇〇相談業務	会計年度任用職員
令和 〇年	〇月~令和	O年	O月	在家庭				
平成 〇年	〇 月~ 平成	O年	O月	徳島市〇〇部〇	〇課		〇〇調査業務	臨時的任用職員
平成 〇年	〇月~平成	O年	O月	在家庭				
平成 〇年	〇月~ 平成	O年	O月	株式会社〇〇〇	0		営業担当	正規職員
年	月~	年	月					
年	月~	年	月					
年	月~	年	月					
年	月~	年	月					
年	月~	年	月					
年	月~	年	月					
年	月~	年	月					
希望する勤務形態		Ø		レタイム勤務 8時間45分)			トタイム勤務 5時間以内)	どちらでもよい
希望する就業場所			本庁舎を希望		Ø	本庁舎以外を希望 (場所: ふれあい健康館)		どちらでもよい
夜間勤務の可否		Ø		可能			不可能	
土日勤務	多の可否	Ø		可能			不可能	

検定、資格、免許等	(スポーツ歴、ボラン	 /ティア歴その他 [!]	特技を含む	`)			
名	称	区分		取得又	は取得見込年月日		
普通自動車運転免許	(AT 限定を含む)	☑ 取得 □	取得見込	平成〇年〇月〇	B		
]	□ 取得 □	取得見込				
]	□ 取得 □	取得見込				
]	□取得□□	取得見込				
パソコン操作	文書作	成ソフト					
+ o = + v + 7 # = r	使用可(以下の該当す	るものを選択)			当するものを選択)		
右の該当する箇所 にレ印をつけてく	□ 資格を所持	(===	_,	□ 資格を所持 ☑ 実務経験あり(経験年数: ○ 年)			
ださい	☑ 実務経験あり(り(経験年数: 〇 年)					
	_	もないが使用可能	Ė		経験もないが使用可能		
(+ + + 1) = F	使用不可		\	□ 使用不可	_ _		
徳島市役所での任用		に直近の勤務経験		てください)	□ 無し 		
任用]期間 		所属		職員番号		
令和 〇年 〇	月~ 令和 〇年 〇月	徳島市〇〇部〇	O課 —		00000		
1 志望理由(きった	かけとなったあなたの紹	験や考えを交え	ながら、具	体的に記入してくた	ださい。)		
 ※ 1~4の欄は、面接試験の参考としますので、必ず記入してください。 2 職場等で培ってきた知識・経験・能力について、今後徳島市で働くにあたってどのように生かすことができるか、具体的に記入してください。 							
3 あなたの性格や人柄について、具体的な事柄を交えながら記入してください。							
4 あなたの特技、自己PR等(職務で活かしたい能力等)を記入してください。							
		ı					
身体等の事情によ な方は右の欄に記 (例:車いすの使用		こ配慮が必要					